

所長就任挨拶

社会の変容と根拠に基づく政策立案

2020年10月に科学技術・学術政策研究所所長に着任しました菱山豊です。読者の皆さま方におかれましては、平素よりSTI Horizon誌を御愛読賜り、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は様々な形で世界中に大きな影響を与え、新しい常態に向けて社会全体が変容しようとしています。こうした大きな困難の中、我が国が持続的に成長し発展していくためにも、科学技術・イノベーションへの期待が大きくなっております。

NISTEPでは、常に時代の変化を捉えながら、科学技術人材、科学技術予測、科学技術指標等の多様な調査研究を実施することにより、科学技術・イノベーション政策の企画立案・推進に不可欠な基盤的なデータや知見の蓄積に努めてきました。このようなデータや知見は、ビッグデータ解析技術やAI技術という最新の技術を駆使して、過去、現在、そして未来をつないだ解析を可能とするものです。こうした調査研究活動を通して、政府全体で推進している、客観的根拠に基づく政策立案（EBPM：Evidence Based Policy Making）の取組に貢献してまいります。

また、文部科学省に設置されている国立試験研究機関としての特長を活かし、我が国の科学技術・イノベーション政策の企画立案、推進と直結した調査研究活動に積極的に取り組んでいます。特に、先般改正され、成立された「科学技術・イノベーション基本法」等の趣旨や現在検討中の次期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた調査研究を進めてまいります。あわせて、COVID-19の影響によって加速している研究活動のデジタルトランスフォーメーション（DX）に対応した調査研究を行います。

さらに、調査研究の推進に当たっては、海外の大学・研究機関との協力関係を構築しており、国内においては政策研究大学院大学、科学技術振興機構等と組織間の研究協力を積極的に進めています。

引き続き、科学技術・イノベーション政策研究の中核機関として、国内外の関係行政機関、大学等の研究機関等との連携を進め、ニーズを的確に捉えるとともに情報発信能力を強化し、調査研究活動を展開してまいります。そして、これらの調査研究やその過程で得られた知見、変化の兆し、さらには、科学技術イノベーションに関する有識者や新進気鋭の若手研究者の御見識を伺い、幅広い読者に素早くお届けするのがこのSTI Horizon誌の役目と考えています。

皆さま方におかれましては、引き続き御支援・御愛読のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

文部科学省 科学技術・学術政策研究所
所長 菱山 豊

